

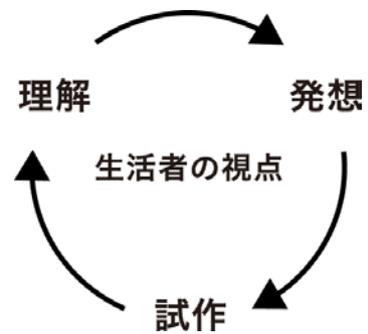
山形県工業技術センターシーズ集（デザイン分野）

デザインシンキングでスマートデザイン開発

「自ら課題を発見し、解決策を導き、提案する」ための商品開発手法〈デザインシンキング〉をベースとし「いつもともしもを両立する」〈スマートデザイン〉製品の開発に取り組みました。

〈デザインシンキングとは〉

生活者の視点を中心に発想する思考法。生活者の状況を理解・共感するところから、仮説を立て、アイデアを創出し、プロトタイプを作って検証するという試行錯誤を繰り返して改善を重ねながらモノ（製品／サービス）を創り出す創造的なプロセスのこと。チームを組んで行うことで、何倍もの力を発揮します。



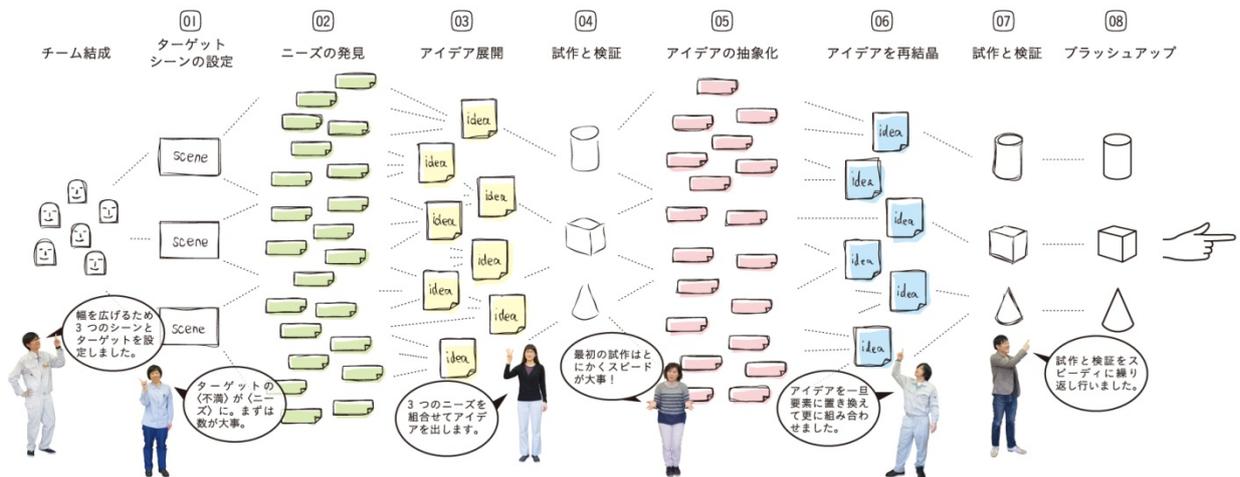
〈スマートデザインとは〉

「いつも」と「もしも」をつなぐデザインのこと。普段便利に使えていたものが災害時や停電時に役立たない、万が一に備えて準備していたものが見つからない…、それは〈いつも〉と〈もしも〉を分断して考えてきたことに原因があります。日常生活のニーズを満たすだけでなく、誰にも起こりうるリスクに備えることをあらかじめ織り込むことが必要として、東日本大震災後に日経デザインが提唱した考え方は



〈開発プロセス〉

“デザインシンキング”をベースとした独自の手法の確立を目指しながら“スマートデザイン”製品の開発に取り組みました。



〈製作したプロトタイプ〉



1. チョコレートを収納できるチョコレート型の時計
2. 裏にキャンドルが収納されているフルーツ型のマグネット
3. 靴べらの照明
4. ビニール袋をかぶせるとランタンにもなるハンドライト
5. 停電時にスマホを光らせる足元灯
6. 裏にキャンドルが収納されている花瓶

【担当部署】企画調整部連携支援室 デザイングループ